

研究報告

機能的な校務運営をはかるための委員会のあり方

福島市立福島第三中学校教頭 渡邊久勝

1. 研究の趣旨

校務分掌の組織・運営については、教育目標の具現化を基盤として、その機能化をはかるために学校経営の反省・評価とあいまって、部分的に修正し、改善に努めてきている。

本校は、学級数22（普通20，特殊2）の大規模校である。従来から全教職員の経営参加意識の高揚をはかり、教職員それぞれが能力を発揮し、責任分担の遂行ができるよう努力してきたところである。しかし、構成員が多だけに、一人一人の責任分担を明確にするためには、分掌事務の細分化が必要である。ところが、○ 校務分掌組織の運営面で連絡調整機能をどう働かせるか。○ 組織としての意思決定、情報・意見や指示の伝達などの組織をどうするか、などの運営上の問題が生じるので、これらを解決すれば、校務運営組織が機能化するのではないか、と考えた。

そこで、これらの問題を解決するために、

- (1) 校務分掌組織と機能の再検討
- (2) 職務内容の明確化と責任体制の確立
- (3) 校務運営の円滑化をはかる組織の工夫

について研究をすすめるが、特に、校務運営全体とのかかわりから、各種委員会のあり方や機能について究明しようとするものである。

2. 見とおし

常設・特設委員会などの役割と機能を明らかにし、校務運営処理表を活用すれば校務運営がさらに機能化するだろう。

3. 研究の方法と対象

- (1) 研究の方法と順序
 - ① 校務分掌組織運営に関する文献研究
 - ② 本校校務分掌組織に関する意識調査
 - ③ 協力校の各種委員会に関する調査
 - ④ 調査結果に基づく校務運営処理表の作成
 - ⑤ 校務運営処理表による実践と結果の考察

(2) 研究の対象

本校教職員 35名
協力校 地区内中学校大規模校 5校

(1) 意識調査による集团的傾向と考察

校務分掌組織・運営上の問題点を明確にし、校務運営の機能化の方向をさぐるために、次のような調査を行い考察を試みた。

① 調査結果と考察

ア 校務分掌の仕事を進める上での困難点は何なことですか。

項目	人数	20	40	60	80	%
時間が足りない。	18	<input type="text" value="51"/>				
どこまでやったらよいかはっきりしない。	7	<input type="text" value="20"/>				
係内だけで判断できないことがある。	5	<input type="text" value="14"/>				
自分の責任でやれる範囲がはっきりしない。	3	<input type="text" value="9"/>				
経費が足りない。	1	<input type="text" value="3"/>				
その他	1	<input type="text" value="3"/>				

〈考察〉

事務的な分掌は、各係で内容を理解し、企画、実践、評価が行われているが、指導関係組織の係分担になると「どこまでやったらよいか」、「自分の責任でやれる範囲」がはっきりしないことが多い。教育活動では、分担をすっきりさせることのできない重なりが多い面があるので、やむを得ないことだとも思われる。

この項目の内容をみると、○ 生徒指導 ○ 学校行事 ○ 突発的な仕事 ○ 校務処理手順の不明確などに関するものである。

また、「係内だけで判断できない」、「時間が足りない」についてのおもな内容は、○ 他係との連絡・調整の時間がとれない。(頻度11) ○ 係会を開く時間がとれない。(同7) ○ 他係とのかかわりで一方的に意思決定できない。(同5) などである。これらのことは、校務運営上、会議の目的・機能を明確にし、連絡・調整の機能をう